

令和 元年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800611	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	平成16年3月1日
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘		
事業所名	グループホーム 都筑の丘		
所在地	(〒224-0057) 神奈川県横浜市都筑区川和町1705		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和2年1月6日	評価結果 市町村受理日	令和2年4月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム都筑の丘は都筑区の中でもひととき、豊かな自然に恵まれた環境のなかにあります。地下鉄の川和町駅からホームまでの道は地域の方が丹精された野菜、四季折々の植物が散歩の楽しみを倍増させてくれています。また通勤する職員の心も和ませてくれます。ホームは2000坪の敷地内にあり、春は桜の開花に合わせたお花見、秋は地域の保育園の園児達との芋堀等はみなさん楽しみにされています。畑のじゃが芋、玉ねぎ、大根、白菜、里芋など収穫した野菜を日々の食事に取り入れています。豚汁は大人気です。栗、柿、みかん、キウイフルーツ、柚子も今年は豊作で毎日柚子湯にしています。毎食鯉節と昆布でだしをとり、地域の商店街から届く新鮮な食材を使い、ほとんど加工品を使わない手作りの食事を提供しています。入居者様の「おいしいね」の一言と笑顔が職員を元気にしてくれます。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年2月5日	評価機関 評価決定日	令和2年3月23日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の概要】**  
この事業所は横浜市営地下鉄川和町駅より徒歩10分ほどの緑豊かな田園風景の中にある。周囲は畑や山林があり小高い丘になっていて遠くは富士山が望める。事業所は2000坪の庭があり庭木や花々が点在し、ゆったりとした風景を作り出している。

**【地域との連携】**  
「地域社会の一員として心豊かな生活を」と理念にあるように地域とのつながりを大切にしている。食材は地域の商店街で調達し、商店主がダンスのボランティアとして訪れている。又、事業所が行っている「秋祭り」は地域住民の協力を得て地域に定着している。管理者は地域の認知症理解のために認知症サポーター養成講座の講師をしている。地域に発信できるものを現在も模索中である。

**【食事の楽しみ】**  
食事を最大の楽しみととらえ、毎食大切にしている。「五感を刺激し個人の能力が発揮できるように支援」と理念にある通り、利用者にも包丁を持ってもらったり、盛り付けや配膳などのできる事を支援している。食卓にはボランティアの育てた野菜や果物が上ることもあり、利用者の楽しみになっている。目からも楽しめるよう彩りや盛り付けも工夫している。職員と共に談話しながら食べる食事は利用者の何よりの楽しみになっている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム 都筑の丘
ユニット名	みずき、やまぶき、あじさい棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に5つの理念を明記してある。その中に地域社会の一員として心豊かに生活を送れるように支援しますが入っています。毎月曜日の朝礼時に復唱しています。	開設時に作った5項目の理念があり、個別ケアの内容を詳細に検討する場合の指針としている。職員は名刺の裏に印刷し毎週月曜に読み合わせをしている。理念は応接室にも掲示し利用者家族にも入所時に説明、理念達成のための協力をお願いしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆様が常に見守ってくださり感謝です。氏神様の初詣の甘酒のふるまい、川和囃子連の獅子舞、町内会の盆踊り、ホームの秋祭りには全面協力いただいています。地域住民と連携の消防訓練にも参加いただいています。	オーナーが旧家の酒屋ということもあり地域とのつながりは強い。初詣や盆踊り、地域の防災訓練に参加している。事業所の秋まつりには多くのボランティアが協力してくれる。中学生の職業体験や保育園児の来訪がある。保育園に七夕の笹の提供などしている。習字や絵手紙、踊りや畑作りに地域のボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	川和小学校の認知症サポーターの講師、近隣の中学校の職場体験、夏休みのボランティア体験の受け入れをしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2か月に1度運営推進会議を行っています。委員の方々にはホームの行事にも参加いただいています。	偶数月に町内会役員、民生委員、ボランティア代表、利用者家族、地域包括支援センター職員が参加して行われる。主に事業報告や認知症についてどのようなケアができるかについての話し合いをしている。外部評価の予定や結果についても議題としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所主催の認知症サポーター連絡会、認知症フォーラムのスタッフとして活動している。認知症サポーター養成講座の講師、認知症カフェ連の講師をすることで連携しています。	運営推進会議の議事録は区の担当に郵送している。川和地区福祉ネットワーク交流会に参加している。また都筑区認知症フォーラムでホームで行っている音楽療法を紹介した。生活保護受給者のことでケースワーカーと連携をとっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという前提でケアを行っている。玄関の施錠に関しては周囲の環境、認知症であるが故必要な方法であることをご家族に入居時に説明してご理解頂いています。	「虐待防止委員会」を3か月ごとに開催し職員の指導に当たっている。4月に県の業務点検シートを使い職員にアンケートを取り、6月に結果を受け研修を行った。また1月には不適切ケアと考える具体例を検討し接遇について考えるきっかけとした。玄関は防犯のため施錠してるが施設内は自由に行き来できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を3か月毎に開催し虐待の防止に努めています。入居者の体の痣、傷等は発見したら即管理者に報告状況に応じ写真撮影し原因を究明しています。入居者の安全と人権擁護を守る努力をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の権利を尊重し守ることの大切さを理念とあわせて職員に伝えていきます。成年後見制度は利用されている方から学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時相談員が利用者、及び代理人の権利（第10条）義務（第13条）契約解除（第14条）をわかりやすく説明し、納得していただき同意を得て契約しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に家族会は設置していませんが、ご家族が面会に来られることが多い土日祝日は管理者、ホーム長は出勤するようにしており、ご家族と対応するようにしている。そこからケアプランに繋げて反映させています。	利用者家族の面会日には管理者が話を聞けるようシフトを調整し、面会の折に直接話を聞くようにしている。クリスマスや敬老会などには利用者家族も招待し交流会を行っている。家族からトイレが暗いと言う意見があり、壁紙を明るいものに張り替えた。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月W会議で出た問題点、改善案などはその場で解決し即実行している。各行事の実行委員による反省会で出されたことは来年度に反映されている。管理者は必ず出席しています。	毎月行われるワーカー会議には全職員が参加し、ユニット会議、ケース会議、研修を同日に行う。休憩が取りにくいと言う意見に対し、業務を見直し休憩を取りやすい体制に変えた。求人方法について職員皆で話し合い募集を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、実績、貢献度などを公平に見極め、職員が向上心を持って安心して働けるよう努力している。介護職員処遇改善交付金は年3回支給しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員の受験時は勤務の便宜を図っています。社内研修はW会議の時にタイムリーな課題で行っています。社外研修にも参加できるように考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川高齢者認知症グループホーム協議会に加入し複数連携事業にも参加している。現場研修にも毎年参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に作って頂いたアセスメントをもとにしながらお話をします。入居初期は緊張や不安が多く、職員だけではなく、他入居者にも協力していただいて対応をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入居者さんに対するの思い、ホームに対する希望など遠慮なく言える雰囲気を作り、ご家族が安心して頂ける環境を作っている。納得出来るまで見学相談をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の不安な気持ちを理解し、あせらずに根気よく対応をしています。帰宅願望、入浴拒否はあって当然と職員は理解して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9人の入居者と職員が下宿屋さんのように暮らせることが理想。それぞれの得意分野を職員が把握し協働している。時にはトラブルも発生するが、それも日常生活と捉えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはいつでも、気軽に来て頂ける様にしている。家族と職員が協力しあうことが入居者さんの安心と安定に繋がると思って援助している。ご家族にさせていただくこともケアと考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過された環境を大切に、し、家族、友人の訪問、外出はととも良いことだと思っています。	電話の取次ぎや絵手紙の住所書きなどの手伝いを行っている。知人の来訪時には湯茶の持てなしを行い、自室でゆっくりしてもらおう。昭和の歌のビデオや音楽療法で懐かしい歌を歌う機会がある。四季の移ろいを忘れないように花々や実のなるものを庭に植えている。馴染みの美容院等の外出は家族同行をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人を職員が常に視野にいれてトラブルを未然に防ぐようにしている。お互いに一方通行の話でも楽しそうに話しているのを職員は温かく見守っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現段階では該当するケースはありません。今後必要なケースが出現した場合は相談、支援していきたいと思います。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	帰宅願望、入浴拒否はあって当然と受け止め、ご本人の気持ちを大切にしながら対応している。困難な時はご家族に協力していただくこともあります。	入居前の生活歴など家族に聞いている。入居後は入浴時など、職員と1対1になる時に得られた「お寿司が食べたい」、「相撲が見たい」などのリクエストを情報共有し、思いを受け止められる様支援している。入浴時に話をする利用者が多い。言葉が出にくい利用者に対しては表情などでくみ取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に幼少時から現代までの状況をご家族と一緒にアセスメントを行い今後のケアに反映させている。お話しの中ででてくる分からない事はご家族にその都度お聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調、気分、天気等を視野に入れながら過ごしていただいている。手伝いをさせていただくことで職員も助かっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体の状態や認知症の進行はその都度対応方法を職員で話し合いご家族に相談し協力していただいています。介護計画の目標が今より低下しないよう援助目標実施を☑し日々の記録と連動しています。	センター方式の利用者図を利用しアセスメントを行っている。毎月のワーカー会議で全員のカンファレンスを行い、モニタリングをしている。日々援助目標に沿ったケアを行い、介護計画に連動した実施記録をつけている。家族には面会時に意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎月報告書をご家族に送付しています。職員間の業務日誌、連絡ノートは出勤したらすぐに目を通し情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携、川和町町内会、婦人会、地元の消防団、保育園、小・中学校、学童保育、地域包括センターなど多くの協力を得て多機能化に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、絵手紙、音楽療法、園芸療法、民謡、秋祭り、餅つき、ダンスなどの地域ボランティアの方たちのご協力、ご近所の方たち見守り助言などを頂き安全で豊かな生活が送れるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年4月より訪問診療のさとう内科クリニックに変更し24時間対応となりました。全入居者のご家族から同意をいただき、ご家族、職員も安心しています。急変時は特に心強いです。	全員が協力医の診察を受けている。必要があれば協力医療機関から内科、整形外科、皮膚科、眼科の医師が派遣されるので家族も安心している。診察結果は書面で家族に送付している。歯科は毎週来訪して、診察している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の看護師からケアの方法、処置等を指導していただき学ぶことが多いです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、カンファレンスにはホーム長、管理者が同行して病院との連携を計っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年12月にホームとして初めての看取りをしました。訪問診療の医師、看護師の指導によりホームで自然な形で最後を迎えられ職員も勉強させていただきました。	入居時に口頭で「ケースバイケースで対応する」と看取りの説明を行っている。看取りについては今年度家族との話し合いによって12月に初めての看取りを行った。今後の方針はまだ定まっていない。	看取りについての方針を決め、文書化し、入居時の説明で家族や利用者の入居判断に資するよう期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時応急手当、救命措置、AEDの使い方を消防署の指導を受けています。また、事故が発生した時はそれを教訓として事例検討をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	歩行できない入居者、避難訓練が理解できない入居者の避難方法が困難です。認知症であることで他所での避難生活は難しいと思っています。広い敷地を利用した避難生活考えています。	近隣住民4名の参加を得て、6月と1月に夜間想定火災避難訓練を実施した。初期消火やAEDの操作法を訓練した。初期消火のためのホース収納箱を敷地内に設置し近隣火災にも使用できるようにしている。備蓄はリストで管理し、近くの物置に食料や水7日分を確保している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の進行により本来のその人らしさが失われてしまうことがあります。その方の尊厳を大切に言葉かけや対応を心がけています。	理念の第1項目に「個人を尊重し、プライバシーを守る」とあり、職員も人生の先輩として利用者にかかわっている。5月に接遇の研修を行い、8月、9月、10月に認知症の研修を行い、言葉かけなどに注意しながら支援している。個人情報が入った書類は事務所の鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや気持ちが表現できるような環境、雰囲気を作っている。散歩、レクリエーションなどの参加も自由で入浴時間なども希望の時間にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を優先して一人ひとりのペースを大切にしている。一日のスケジュールは特に決めず、天気、入居者の希望を優先しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ自分で決めています。できない方は職員が季節、色の組み合わせ等を配慮してコーディネートしています。行事の時はふさわしい服装を配慮しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、食器拭き、食器をしまう等一人一人の得意な事をしています。外食や出前をとったりすると喜ばれます。献立がマンネリ化すると管理栄養士に伝えメニュー変更しています。	食事は利用者にとって大切な物として手作りにこだわっている。管理栄養士が作成した作り方付きの献立をもとに職員が調理している。食材は地元の商店に配達してもらう。利用者は時には包丁を持ち調理や配膳、盛り付けなど、できる事を手伝う。畑の食材や近隣で取れる物など、季節感を大切にし、彩りも考えて作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い献立に季節の旬の物を取り入れてもらっている。歯の状態、嚥下低下に合わせて対応しています。食べにくかったり、不評のメニューは栄養士に伝え変更しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科衛生士による口腔ケアを行っている。職員も歯科衛生士による口腔ケアの指導を受けている。毎食後に職員が歯磨きの見守り、介助をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、リハビリパンツを使用してもトイレでの自然な排泄ができるように支援しています。手引きでトイレまで歩く、座る、立ち上がるという一連の動作がリハビリになっています。	各ユニット3か所のトイレがあり、自立の支援に努めている。臭いには特に気をつけ、毎日のトイレの清掃はもちろん、寝具についた臭いも気になるため、丸洗いできるものを用意してもらい、3か月ごとに洗濯を行っている。重度になってもトイレでの排泄を支援するため時には3人で支援を行う事がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が認知症の発症の原因の1番と言われていました。1日2回ラジオ体操、ストレッチ、散歩等をして自然な排便が出るよう支援していますが便秘症の方はかかりつけ医に相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきの入浴ですが毎日入りたい方には時間調整しながら入っていただいています。拒否が強い方は無理じいはずせず職員間の連携プレーで気持ちよく入浴できるようにしています。	1日おきに入浴ができるよう支援している。入浴を好まない方への誘導を考え「ご予約券」を用意したり、順序や言葉かけを工夫している。庭の柚子を利用した「ゆず湯」は好評である。体調により清拭や足浴に変更することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングでお手伝い、余暇支援、散歩をすることが夜間の良眠に繋がります。疲れたら適度に居室で休息したり、昼寝をしたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬のことががすぐ分かるようまた与薬時の誤薬の防止のための服薬管理表を職員二人で声を出し確認をしている。薬の変更がある時は連絡ノート、引継により徹底しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の得意なこと、好きな歌を職員が理解して特意分野のことが発揮できるような場面を作っている。役割があることが自信になっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然恵まれた環境なので、天気の良い時は午前、午後と散歩にお連れしています。全棟行事としてご家族にも協力していただき春・秋の遠足をしています。	天気の良い日は近隣に散歩に行っている。園内の畑や果樹園、庭木の間も散策ができるようになっており、そこかしこにベンチが置かれ、花見や日光浴にも最適である。春と秋にはユニット毎にズーラシア動物園に家族と共に遠足に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症であることによる、金銭トラブル、妄想等の出現あり、現金はお預かりしていません。ご本人には家族が預っていることをその都度お話ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の場合はご家族の了解を得た上で、掛けたいと言われた時にホームから家族、友人に電話をかけている。自分で描かれた絵手紙を友人、家族に出しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良すぎて暑くなったり、眩しくなるのでその都度カーテン、ブラインドで調整をしています。CDの曲も季節、その場にいる方の好みで選曲しています。程良い明るさと音量を意識しています。	各ユニットの廊下には絵が掛けられたり、花をテーマにした飾りなどが壁に掛けられ、落ち着いた雰囲気を醸し出している。間取りも工夫され天井が高く周辺の緑が目飛び込んでくるように大きな窓がある。対面キッチンからは五感を刺激するように臭いが伝わってくる。加湿器も3台あり、毎日の掃除が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ置いてあり顔が向きあわないように配置しています。夜はテレビを一緒に観ています。ソファが一人になれる空間にもなっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、お気に入りのカーテンなどそれぞれの入居者が工夫して生活しているが、認知症の進行により危険物と判断した場合はご家族に相談し撤去しています。	エアコン、照明器具、レースのカーテンが備え付けられている。居室前の名札も各ユニットそれぞれ工夫している。どの部屋も居室からベランダに出られるようになっており、感染症などの時は共有部を通らず職員はベランダから出入りできる。カーテンや家具、写真などそれぞれ好みのものを持ち込み居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	広い廊下とリビング、ダイニングを介してさりげない見守りができるように対面式キッチンにしています。転倒リスクのある入居者のベット下にはセンサーを設置し、なったらすぐに対応できるようにしています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム都筑の丘

作成日

令和2年 4月2日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看取りについての方針を決め、文書化し、入居時の説明で家族や利用者の入居判断に資するよう期待します。	法人として介護保険上の看取りはしないという方針は変わりませんが、昨年4月から医療体制が24時間365日対応に変わりましたので状況に応じた対応をしたいと考えています。	「グループホーム都筑の丘における重度化対応に関する指針」を作成するための情報を収集し、医療機関とも相談し取り組みたいと思います。	6カ月
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。